

デボラとヤエル

士師記4:1-3

* デボラの時代背景は？

神はヨシヤを通してイスラエルにカナンを全て征服するように言われたが、すべての土地を征服することはせず、カナン人をすべて追い出すこともせず、いっしょに住むようになり、彼らの風習を受け入れて、神の前に悪を行なうようになった(主に偶像礼拝)。イスラエルが墮落すると、神は周りのカナン人に圧迫されるようにされ、イスラエルは苦しくなると、神を呼び求め、神は士師を起こして下さり、救って下さった。(士師記はこの繰り返しが続く)デボラの時は、エフデとシャムガルという士師が死んでしまった後、イスラエルがまた主の前に悪を行っていた時。神はハツオルで治めていたカナンの王ヤビンの手にイスラエルを渡された(ヤビンの將軍はシセラでハロシェテ・ハゴイムに住んでいた)。「ハロシェテ・ハゴイムは、ナフタリとゼブルンとイッサカルの領土にまたがる地域(これ伏線があるから注意!)。鉄の戦車 900 両を持ち(圧倒的軍事力)20年間圧迫した。

4:4-5

* デボラはどんな人?特徴は?

デボラ: ミツバチ...せっせと甘い蜜を集める働き者、でも必要な時は刺す

バラク: 稲妻 ヘブル11:32に信仰の人として名が挙げられている

ヤエル: 野生のヤギ

4:4「ラピドテの妻」普通に奥さんをしていた

「女預言者」数少ない女預言者の一人 神様からのことばを預かっていた

「士師(さばきつかさ)」士師記の中で唯一女性の士師 神からリーダーシップを与えられていた

4:5「デボラのナツメヤシの木の下にいつも座っていた。」いつもというのはなかなかたいへんなこと。神にいつも使っていただくようにできていた人。

「ラマとベテルとの間」ラマはベテルよりは南、どっちもエルサレムよりは北の位置...実際の戦いがあったのはイズレエル平原のタボル山らへん(ガリラヤ湖よりは南西)

「イスラエル人は彼女のところに上ってきて、さばきを受けた」人々から裁きつかさとして受け入れられていたことがわかる。

4:6「ナフタリのケデシュ」ナフタリはガリラヤ湖らへんから北の地域でさらにケデシュはその中でもどちらかというとなの方

そこにいたバラク(稲妻君)を呼び寄せて、神からの出陣命令のメッセージを伝える。

4:6-7 神様からのメッセージの内容

「タボル山に進軍せよ。」

「ナフタリ族とゼブルン族のうちから一万人を取れ。」敵の数は書かれていないけれど、

900両の戦車っていうのは結構な軍事力のはず、ギデオンがミデヤン人と戦った時は数十万単位の敵だったから、かなりの数のハズ。二つの部族からだけの編成軍だから数は少なかったはず。

「ヤビンの将軍シセラとその戦車と大軍」と書かれているから、かなりの大軍のはず。「わたしは」ということは、神がヤビンの将軍シセラたちをキシヨン川のバラクたちの所に引き寄せてくださり、バラクたちに渡す、つまり勝利を与えてくださるという約束。

4:8この神の呼びかけと約束に対するバラクの答えは条件付き。デボラと一緒にしてくれるなら行くけれど、そうでないなら行かない。…よくとる人と悪くとる人と両方の解説アリ…みなさんはどう？

この時点での神の約束は、「彼(シセラ)をあなた(バラク)の手に渡す」だったところに注目！

4:9デボラのバラクに対する答え。

「必ずあなたといっしょに行きます。」すごくはっきりとした約束。

でもちょっと残念なお知らせが続く「あなた(バラク)が行こうとしている道では、あなた(バラク)は光栄を得ることはできません。」神の命令に条件を付けずに従っていれば、光栄を得ることができたかも。

「主はひとりの女の手売り渡される」別の人、しかも女の手で神がカナン人の国の将軍シセラを渡されるというのだ。

「デボラは立ってバラクといっしょにケデシュへ行った。」バラクの条件通りにデボラはいっしょに行った。

「ケデシュ」は、次の10節でもあるがイスラエル軍の結集地点。ヨルダン川より西側でガリラヤ湖のもっと上にあるちっちゃい湖よりも北の地点。

4:10繰り返し

「デボラも彼(バラク)といっしょに上った」タボル山に登ったってこと。戦いの時は平地に陣を敷くより山の上の方が見晴らしがよいし、防衛もしやすいから。デボラは山登りもしたんだ！

4:11「ケニ人へベル」こんなところに、伏線が…へベルは将軍シセラを倒したヤエルの夫

「ケニ人」って、モーセの奥さんの民族(異邦人)だったけれども、荒野の旅を同行してイスラエル側についていた人たち、しかし、ヤエルの夫のへベルはそのケニ人とは一線を画して、ケデシュ(イスラエル軍の結集地)の近くのツァナニムの樫の木のそばに天幕を張っていた。

4:12-13 バラク率いるイスラエル軍の動きに対応した

「シセラは鉄の戦車九百両全部と、自分といっしょにいた民をみな、ハロシエテ・ハゴイムからキシオン川に呼び集めた。」

「シセラは・・・呼び集めた」って書いてあるけれど、これはシセラ側の考えだけれど、4:7を考えると、これは神がしてくださったことが分かる。

しかも、ご丁寧にシセラは高々1万人のイスラエル軍相手に総攻撃をかけるつもりでいた(そのように神に動かされていた)「戦車九百両全部と、自分といっしょにいた民をみな」

「キシオン川」は、イスラエル平原の流れる川、だだっ広い所で、何も守る者がいない所に布陣している。確かに、戦車と大軍を動員するためには便利だったかも。でも、冬の雨季はぬかるみになる。

4:14「そこで」・・・シセラ側の全軍がキシオン川に結集したのを確認してからってことだよな。

「デボラはバラクに言った」デボラがバラクに出陣命令、宣戦布告を下す。

「さあ、やりなさい」すごい勇気。でも神様からの言葉を託されているし、その神を信じていた信仰が表れているかな。

「きょう、主があなたの手でシセラを渡される。」短期決戦です。主がシセラを渡してくださる。なぜそれが分かるかというと・・・「主はあなたの前に出ていかれるではありませんか。」イスラエル軍が出陣する前にもう主が戦いを始めてくださることが分かる。

「それで」この神のことはデボラから聞いて、バラクが動きます。バラクはタボル山から下り、集まった一万人もついて行った。

4:15 実際の戦いの記述

バラクたちが何かする前に主が動いてくださっていることが分かる。

シセラが戦車から飛び降りて、なぜ徒歩で逃げなければならなくなったのかは、(主が何をされたのかは)、5:4と5:20-21を見ないと・・・

(5:4) 主の栄光が現れ、主がいてくださるだけで、ほとんど地震状態、これでは敵はパニックになったかも(「大地が揺れ」、「山々は主の前に揺れ動いた」)、雨が降ったことが分かる、神の臨在により、大自然もそれに反応している(「天もまた、したり、雲は水をしたたせした」)

(5:20)「天からは星が下って戦った。」最初は隕石でも落ちてきたかと思ったけど(「軌道を離れて」とあるし、まあ何か物体が降ってきたという可能性もあるかもだけれど)、4:15で、「剣の刃でかき乱した」とあるので、天の軍勢が戦ってくれたと考えるのが、いいのかな。

(5:21)では、「キシオン川は彼らを押し流した」とあるので、キシオン川が氾濫したことが分かる。5:4で、神が雨を降らされたことがわかる。ぬかるみで動けなくなって、そ

れでシセラは戦車を乗り捨てて、徒歩で逃げていかななくてはならなくなってしまったわけだ。

4:16「**バラクは戦車と陣営をハロシェテ・ハゴイムに追いつめた。**」ハロシェテ・ハゴイムはシセラの住んでいる場所だから、敗走して自分の家に戻ろうとしたと考えられる。それをバラクたちは追撃して、追いつめて、「**シセラの陣営の者はみな剣の刃に倒れ、残された者はひとりもいなかった。**」ってことは、全滅したってこと。

4:17で、歩いて逃げたシセラがどうなったか。「**ケニ人ヘベルの妻ヤエルの天幕に逃げてきた。**」ケニ人ヘベルのところに逃げた理由として、「**ハツオルの王ヤビンとケニ人ヘベルの家とは親しかったからである**」とあるので、ヘベルはイスラエルではなくて、カナン人の王と親しい関係にあったことが分かる。4:11でもモーセの親戚とは袂を別っていたことが書かれている。しかし、シセラはヘベルのところではなくヘベルの妻のヤエルの天幕に行っている。ヘベルのいる所はケデシュの近くなので、かなり遠いので、ヘベルの妻ヤエルがいた所の方が近かった(ガリラヤ湖の南端のあたり)というのが理由かもしれない。

4:18ヤエルはシセラを迎えに出てきた。そして、言った言葉・・・「**お立ち寄りください、ご主人さま。私のところにお立ち寄りください。ご心配には及びません。**」中東では旅人をもてなすのは当たり前だったが、う～ん殺そうという下心がありあり。しかも、長い距離を歩いて疲れているシセラを安心させる言葉をかけている。「**ヤエルは彼に毛布を掛けた**」しかも寝かせようとしている。

4:19シセラは「**水を少し飲ませてください。**」とお願いしたが、ヤエルは「**乳の革袋をあけて**」とあり、5:25を見ると分かるが、単なるミルクを与えたのではなく、高価な器でヨーグルトを勧めたことがわかる。破格の待遇で、しっかりシセラを安心させている。くたびれていたし、お腹もすいていたから、すっかりお腹も膨れ、疲れもどっと出てきただろう。そして、さらに毛布を掛けてやっているから、もう寝るっきゃない。

4:20しかし、シセラは寝たいが心配なので、味方になってくれたと思ったヤエルにお願いをする。「**天幕の入口に立っていてください。もしだれかが来て、『ここにだれかいないか』とあなたに尋ねたら、『いない』と言ってください。**」かくまってほしいとお願いしている。

4:21で、ヤエルがどうしたかが書かれている。天幕の鉄のくいと槌が凶器。「**地に刺しとおした**」とあるので、きちんととどめをさしていることがわかる。夫にとってはシセラは仲間だったはず。しかし、ヤエルは別の意見を持っていたようだ。神に用いられた

器になった。なぜヤエルがこのようなことをしたのかは聖書のどこにも書かれていないので、知る由もない。しかし、イスラエルの神への信仰があったと思うのが自然ではなからうか。シセラは死んだ。

4:22「**ちょうどその時**」これで、デボラの預言が成就する。バラクはシセラを追ってきたが、自分でシセラを打ち取ることはできなかった。ヤエルはバラクを出迎えていった。「**さあ、あなたの捜している人をお見せしましょう。**」戦いの噂をヤエルは聞いていたかもしれないが、神から知らされていたのかもしれない。ヤエルが預言者だったとする解説もある。

4:23「**神はその日、イスラエル人の前でカナンの王ヤビンを服従させた。**」4:14のデボラの預言が成就する。

4:24そして、その後イスラエル人がカナンの王ヤビンを発ち滅ぼすに至るのである。

士師記 5 章 デボラとバラクの勝利の歌

出エジプト記 15 章のモーセとミリアムの歌を思い出すことができる。

デボラは、詩を書くこと、歌を歌うこと(賛美すること)ができる人だったことが分かる。最初の方は主を賛美する言葉が多い。

5:1イスラエルが進んで主の戦いをする時に、主をほめたたえよと呼びかけている。

5:2「**王たちよ**」「**君主たちよ**」と言っているので、イスラエル以外の異邦人の君主たちにも主のすばらしさを伝えようとしている。

5:4-5主がなされた、栄光のすばらしいみわざを語っている。

5:6-7デボラの時代の前

「**アナテの子シャムガル**」は士師の一人、「ヤエル」は士師のような役割を果たしていたという注解をする人がいる。とにかく、安全ではなかったなので、大通りを旅人が歩いたり貿易の隊商が通ったりすることができなかった。農業をしてもダメになるので、農業もできない。「**デボラ**」が「**イスラエルに母として立つ**」神がデボラを士師として立たせてくださり、イスラエルの人々は、また商業や農業をすることができるようになった。

5:8「**新しい神々が選ばれた時**」は、異邦人の王たちが支配していたとき、ということ。「**城門で戦いがあった**」は、カナン人にやられそうになっていたことかな? 「**イスラエルの四万人のうちに、盾と槍がみられたであろうか。**」は、イスラエルはカナン人に対し

て戦わなかったし、武器もろくなものがなかった。

5:9-11 デボラが戦いを人々に呼びかけている。

5:12 デボラが自分自身とバラクに対して、励ましの声をかけている。もしかしたら、夜間の奇襲攻撃をしたのかもしれない。「目覚めよ」「起きよ」と言っているのだ。

5:13 タボル山から降りて戦いに出るイスラエルの人たちを「貴人」「勇士」と呼んでいる。

5:14 戦いに諸部族から人々が集められている。

エフライム

ベニヤミン

マキル(民数記26:29によるとマナセ族の中にマキル族がいたことがわかる)は指導者

ゼブルンは指揮をとる人がいた

5:15 イッサカルのつかさたちはデボラとともにいたということは、デボラを護衛する(親衛隊?)その他のイッサカル族はナフタリ族のバラクといっしょに戦っているシセラたちが勢力を振るっていた所はナフタリ、ゼブルン、イッサカルの領土のあたりなので、中心に戦っている。

5:15-16

ルベン支族は、ヨルダンを渡らずに、ヨルダン川の東の良い牧草地を選んでしまった部族。あまり戦わなかったようだ。

5:17 ギルアデはガド族とマナセの半部族のいるところ、ダン族とアシェル族も集まってきたいない。

5:18 ゼブルン族とナフタリ族は勇敢に戦った。主戦地でもあったし。

5:19 ハツオルの王ヤビンだけでなくカナン人の王たちも参加したことが分かる。タナクはイズレエル平原にあってメギドより南に位置する。戦いに参加したが、負け戦だったから分捕り物はなし。

5:20-21 はすでに説明済み

5:22 地がぬかるんでいるから、馬が一生懸命走ろうとしているのか?

5:23「**主の使い**」イエス様？「**メロズ**」はどこかわからないが、手助けに行かなかった。
主の手助けに来ない人たちが呪われている。

5:24ヤエルが大いなる祝福を受けている

5:25－26ヤエルがシセラに何をし、どのように打ち取ったかが書かれている。

5:27シセラの最後

5:28－30シセラの母とシセラの宮殿にいる女たちの描写(さすが女性のデボラの詩
だけあって、詳しく書かれている、分捕り物も女性や織物などが詳しく書かれている)
哀れに聞こえる

5:31「**主の敵がみな滅び**」、「**主を愛する者**」が日の出のような力強さを持つようになる
ようにとの祈りで締めくくられている。そして、40年の安息があったことが記されて
いる。